

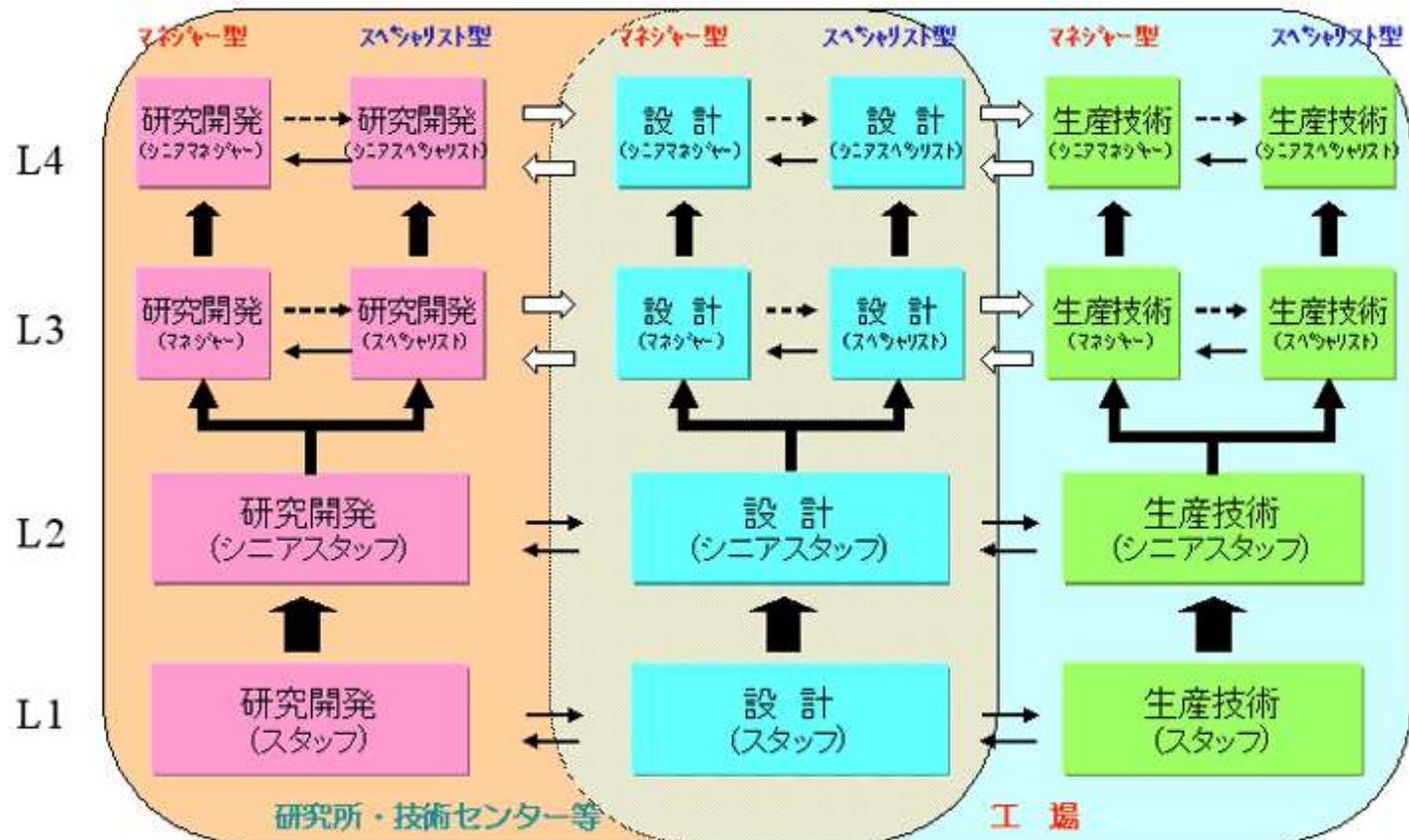
職業能力評価基準(光学機器製造業)レベル区分の考え

レベル	レベル区分の目安	
レベル 4	<p style="text-align: center;">マネジメント系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模または業績影響度の大きい組織の責任者として、組織目標を設定し、広範かつ統合的な判断及び意思決定を行いながら組織を統率するために必要な能力水準。 <p style="text-align: center;">スペシャリスト系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 極めて高度な専門技術を有し、担当分野における技術開発や問題解決等を通じて、企業利益を先導・創造するために必要な能力水準。 	<p style="text-align: center;">マネジメント系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当組織の責任者として、生産計画や組織目標を設定し、その達成に向けて組織全体を統率するために必要な能力水準。 <p style="text-align: center;">スペシャリスト系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 極めて高度な熟練技能を有し、精密な作業を正確かつ効率的に行い、製品の高付加価値化に貢献する能力水準。 (※高度熟練技能者に認定されるような技能水準)
レベル 3	<p style="text-align: center;">マネジメント系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小規模または業績影響度が通常程度の組織の責任者として、上位方針を踏まえて担当組織の業務計画作成や管理運営を行うために必要な能力水準。 <p style="text-align: center;">スペシャリスト系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度な専門技術を有し、担当分野における技術開発や問題解決等を通じて、企業利益を創出するために必要な能力水準。 	<p style="text-align: center;">マネジメント系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 係長・班長・職長等として、作業現場の管理・監督を行うために必要な能力水準。 (※技能検定特級程度の能力) <p style="text-align: center;">スペシャリスト系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度な熟練技能を有し、精密な作業を正確かつ効率的に行い、製品の高付加価値化に貢献する能力水準。 (※高度熟練技能者に認定されるような技能水準)
レベル 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループやチームの中心メンバーとして、創意工夫を凝らして自主的な判断、改善、提案を行いながら業務を遂行するために必要な能力水準。 (※技能系については、技能検定1級程度の能力) 	
レベル 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者として、上司の指示・助言を踏まえて定例的業務を確実に遂行するために必要な能力水準。 (※技能系については、技能検定2～3級程度の能力) 	

光学機器製造業におけるキャリア形成の例

【技術者のキャリア形成の例】

◆技術者は、自身の専門技術に軸足をおきつつ、研究や設計、生産技術など特定の職種でのキャリアを深める者もいれば、これらの職種のうちいくつかを経験しながらキャリアの幅を広げる者もいる。
 ◆また、技術者のキャリアは、多くの場合、L2からL3に移行する段階で、スペシャリスト(高度専門職)系とマネジャー(技術管理職)系に分かれる。その際、会社都合のみならず、本人の能力や適性に応じた適切なキャリア形成が行われることが望ましい。



【技能者のキャリア形成の例】

- ◆ 技能者は、レベル1では「製造技能者」または「保全技能者」に位置付けられる。
- ◆ レベル2では各人の適性・技能に応じて「製造技能者」「多能工型技能者」「修理技能者」「保全技能者」のいずれかとなる。
- ◆ レベル3・4については、能力や適性に応じて「マネジャー型」または「スペシャリスト型」に分かれる。

